

大型船同時着岸を可能にする国際物流ターミナル

令和5年度四日市港霞ヶ浦北ふ頭地区岸壁(-14m)本体工事(その2)
令和6年度四日市港霞ヶ浦北ふ頭地区岸壁(-14m)基礎工事



四日市港は、国際拠点港湾に位置付けられている重要な港湾施設である。港内の霞ヶ浦地区においては、近年のコンテナ貨物の増加や船舶の大型化への対応、さらには完成自動車やエネルギー関連貨物の増加に伴うふ頭の混雑が喫緊の課題となっている。

本工事は、こうした課題を解決するため、既存コンテナターミナルに隣接する新たなコンテナターミナルを整備する一環として計画されたものである。当社は既設岸壁に連続する区間において、本体杭打設工事と基礎石投入工事の計2件を施工し、港湾機能の強化に貢献した。

完成写真



工事概要

工事名 令和5年度四日市港
霞ヶ浦北ふ頭地区岸壁(-14m)本体工事(その2)
工期 令和6年6月18日～令和7年1月30日
工事内容 【本体工】鋼杭工(鋼管杭φ1,300 L=45.0m)120本

工事名 令和6年度四日市港
霞ヶ浦北ふ頭地区岸壁(-14m)基礎工事
工期 令和6年8月21日～令和7年3月19日
工事内容 【仮設工】杭頭連結 一式
【基礎工】基礎捨石工 基礎石投入(1) 65,673m³
基礎石運搬 2,695m³
基礎石投入(2) 2,073m³

工事場所 三重県四日市市霞二丁目地先
発注者 国土交通省 中部地方整備局(港湾) 四日市港湾事務所
施工者 東洋・あおみ・株木特定建設工事共同企業体



担当者の声

当現場は、同岸壁区域で4工事(うち2工事は当社JV工事)が発注されました。これらの工事すべてを年度内に完成させる計画であり、自工区を早期に完成させ、次工区へ引き渡すことが課題でした。

本体杭打設工事においては、当初設計で指定されていた杭打ち船が関西方面での施工が長引き、当現場への投入が大幅に遅れる状況でした。そこで、発注者と協議の上、JV提案の設計変更により代替工法としてフライング式(バイブロハンマーと打撃ハンマー併用)を採用することとなり、遅延なく後続工事へ引き継ぐことができました。

基礎石投入工事においては、杭頭連結の鋼材組立を陸上で実施しました。ユニット化することで現地での組立作業を最小限に抑え、施工時間の短縮を図りました。また、基礎石の投入は500トン級起重機船2隻を配船することで日当たりの投入量を増やし、スパッド式船舶を使用することで投入時の安定性と安全性を確保しました。

港湾工事は気象状況に左右され、早朝からの作業も余儀なくされましたが、如何にして進めていくか知恵を絞り、一致団結できたことで遅延なく期日までに他工区へ引き継ぐことができました。その結果、2工事ともに無事故無災害で完成し、発注者から表彰対象となる高い評価をいただきました。

このような大型港湾工事に携わり、土木事業本部をはじめとする関係各位と協力しながら完遂できたことは、大きなやりがいと達成感を感じる貴重な経験となりました。

